

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら金山		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172800548&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームうららはバス停より徒歩1分程のところであり、閑静で、日当たりのよいところにあります。近くには温泉施設・道の駅・体育館・老人ホームがあり、平成25年には市立病院がオープンされる予定で、医療・福祉連携が期待されます。地域との連携も良好な状態で、日頃からの付き合いもあり、散歩の時の挨拶、交流もごく自然にでき、また、地域の祭礼・夏祭り・避難訓練への参加など住民として生活しています。交通のアクセスがよいため、面会・訪問も多く、ボランティアの方々の友愛訪問など入居者にとって、良い環境であると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、静寂な土地にあり、国道から一歩離れているが、道の駅や老人ホーム、温泉施設も近くにあり、利用者の生活を豊かにするものになっている。日常の散歩コースは交通量の少ない道で、墓や神社があり地域の方と挨拶を交わしながら出かけている。家族の訪問も多いホームであり、職員の定着も良く離職者は少ない。協力医との関係もよく、これまでに自然の形の看取りを2例、家族・医師とよく連絡をとり行った。地域で行う防災訓練にも利用者・家族と共に参加した。介護度が比較的軽く、移動力もある利用者が多い。ホームは、「明るく笑い、楽しく語る生活をつくる」を理念とし、職員はその実現に向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者・職員ともども分かりやすい理念を掲げ、職員会等機会をとらえ理解されるようにしている。	事業所が地域密着型となり、地域の名称「ぬくもりの里」から『ぬくもりの金山の地で、うららかに 明るく楽しく語らん』の理念を作成し、利用者の明るく楽しい暮らしを作り出すように職員間で話し合い努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩、買い物等で馴染みの方が増えた。時には野菜を頂いたり、見守りをしていたりし、祭礼・盆踊り・避難訓練に参加させていただき、交流させて頂いている。	地域とは、毎日の散歩で挨拶を交わすことや市全体で行う防災訓練に参加するなど交流を図っている。現ホームの隣にグループホームを新設するにあたり、今後も地域との良い関係が続くよう説明し、理解を得るよう働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験や知識を生かすべく、お尋ねがあれば、お話し現状もお伝えしながら、お力を貸して下さるようお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・行政・事業所・民生児童委員などの参加で利用者目線に合った観点で、話し合い、サービスに繋げている。	市職員、利用者の家族、ホーム本部職員、ホーム職員の参加で開催している。昨年の開催は2回に留まっており、1年を振り返ったホームでの生活報告や行政への質問が行われた。運営推進会議の2週間程前に利用者家族全員へ案内を出しているが参加は少ない。	2ヶ月に1回の開催に向け、また、地域の代表や役員の参加が得られるよう、関係者に積極的に働きかけられたい。さらには、家族の参加しやすい時間帯で行う等開催にも工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加してもらい、私どもの運営推進に協力的かつ好意的で連携は取れている。	市と連携を図り、行政、介護保険の情報を得たり、隣地に新設するグループホームの設置基準等についても相談し進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	パンフレットなどを活用し、日頃より職員間で話し合い、身体拘束防止に努めている。	身体拘束しない方針を運営規定に記載している。玄関の施錠はしない方針ではあるが、外出傾向の強い利用者がある場合の対応として施錠する時間帯がある。	利用者の不安な気持ちや気にかかることへの推察や観察力を高め、施錠に限らず利用者の行動制限に繋がる行為をできるだけ排除する支援方法への取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会等でテーマに上げ、話し合うことがある。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどを活用し、日頃より職員間で話し合い、話題には上げるが、難しい面があり、いまひとつ理解されにくい。が、このような制度があることはお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書を手渡し、熟読されるようにお伝えし、契約時には何でもお聞きくださるようお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の書類発送時、ご本人の近況報告と共に、当ホームへの意見・要望をおっしゃって頂くようお願いしている。また、面会時にも遠慮なくおっしゃっていただくようお願いしている。	家族の面会はどの利用者にも多く、家族の意見や要望は、訪問時に話し合っている。また、電話での聴き取りも随時に行っているが、記録に残し、情報を共有する仕組みまでには至っていない。	家族の意見を職員間で共有できる仕組みや、家族へ利用者の状態を記録物で提供する取り組みも期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会では自由に発言しやすい雰囲気作りをしている。職員会での発言に関しては陰口・文句等は一切言わないよう決めている。	月1回職員会議を開催し、自由に意見を出す機会としている。ケア困難な利用者の対応を話し合い、事業所としての方針を決めている。	職員の意見は引き出しているが、出た意見が運営に反映されるためにも、職員研修の充実を期待し、職員の質の向上が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように心配りしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	配慮してもらってはいるが、内外の研修に関しては、充分でない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会にも加入し、支部会への参加、講演会への参加呼びかけをし、他ホームへの訪問もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当時は特に不安感が強いと思われるので、集中的な見守りを徹底し、不安そうな言動・行動が感じられたそと寄り添うように見守りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細なことでも言っていただき、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス必要度を見極め、対応し、他のサービスも出来る限り紹介・説明する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	些細なことでも話し合い、昔話を聞き、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一番の主人公は本人であり、家族・職員・地域社会・ボランティアなどは本人を支えるスタッフであるという認識で対処していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を訪問したり、自宅近くまで出向く。入所により孤独になったり、関係が疎遠にならない様配慮し、訪問・面会を促す。	かかりつけ医への受診支援後に、利用者の希望で自宅近くや馴染みの場所までドライブしたりする。また、正月や盆には自宅で過ごせるよう家族に依頼し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームをやるにせよ、外出をするにせよ常に同じ仲間であるという気持ちをもってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去の例をあげると、入院された方に見舞い・髪の手入れ・寄せ書きを出すなどした。そのことが現入居者の方に安心と信頼に結びついた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、本人の意向・考えに沿うようにしている。意思表示できない人には、気持ちを忖度するようにしている。	平均的な介護度はそれほど高くなく、自分で意思表示ができる利用者が多い。日常においても、その都度、利用者の意思確認を行い、提供する飲み物の味加減等も尋ねている。職員間で情報の交換や伝達はしているが、個別支援に繋がるような記録には至っていない。	意思表示がうまくできない利用者には、利用者が取っている行動に対し疑問を持ち、原因を知ろうとする視点も持った支援を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	近隣・ご近所・顔なじみの関係があるので、ご本人の理解はしやすい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックはもとより、言動・行動・食事等々で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会で現状における課題を出し、それをもとにケアマネが介護計画を立てている。	家族の面会時に聞き取ったことや医師の指示、職員の意見を職員会議に持ち寄り、課題を出し、介護計画を立てている。	利用者や家族の意向を把握し、情報を集約し、計画に反映させ、さらには、計画の職員周知、計画の実施状況のチェック、モニタリングに繋がるよう取り組まれない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・会議記録・生活記録・申し送りノートなどの情報を元に、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の事業所の現状で何ができるか問い直す必要はある。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会・近隣家族はもちろんのこと社協・包括支援センター・ボランティアとの協働によりより良い暮らしを実現すべく努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、本人・家族に連絡し納得していただく。何でも相談できるかかりつけ医で、信頼が厚い。契約看護師も丁寧に利用者のお話を聞いてくれるので、頼りにしている。	近距離にかかりつけ医があり、家族の依頼があれば受診支援も行っている。また、介護タクシーを利用し受診する利用者もいる。かかりつけ医とは、何でも相談できる信頼関係があり、利用者の様子を見にホームに立ち寄ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記に加え、適切なアドバイス・相談・受診の勧めなどの確かなので信頼がもてる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医のアドバイス・病院との連携が取れているので、この点安心感はある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針をうらら(金山・関・奥町)で作成中である。それに地域性や事情に合わせた指針をたてたい。医師・看護師の協力も仰ぎたい。その時点で、終末期のことを本人・家族を交え話したい。	これまで2例の自然の看取りを経験した。かかりつけ医師と家族、職員で十分に話し合い、都度の連携も熱心に取り組み対応した。医療行為を必要としない利用者については、最期まで支援する方針としている。隣地にグループホームを新設するにあたり、法人共通の看取り指針を作成中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制はたてているものの実践力には心もとないところがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消火訓練を実施。1回は消防署の指導を受ける。町内の避難訓練にも参加し、非常時の協力をお願いしている。歩行状態の悪い人は居室入り口に車椅子マークを貼って明示している。	災害訓練は年2回開催している。内1回は、運営推進会議日に実施し、家族や近隣者の参加もあった。夜間想定での避難経路と、避難場所の確認を行っている。また、市の避難訓練に利用者・職員も参加し、ホーム利用者の避難時の支援も依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域の敬語を使い分かりやすい言葉で話す。居室に入る時は必ず一声かける。暖簾等を使用し、プライバシーが保てるよう配慮している。	利用者にとって馴染みのある地域の言葉遣いを意識し、親しみのある言葉かけを行っている。部屋の入り口にのれんがかかっており、目印と共にプライバシー保護を兼ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	そのように働きかけはするが、充分でない面がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとは特に決めてはいないが、その日、その人の希望・願いを充分には支援できない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望やお洒落心を大切に、よりよくなるようアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルに着き、季節の話題や食事にまつわる思い出話をしながら、食事をすすめる。要介護者にはペースト食を提供し、隣席で介助する。	食事は職員が作るが、利用者も食材の準備や片付けの手伝いなどに参加している。利用者も職員と同じ食事を食べており、介護支援専門員が栄養士であり、献立を立てている。干柿や漬物、おやつなど利用者と共に作り、皆で楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が把握し、健康保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず、口腔ケアは実践している。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促す。不潔にならないようパッドの取替えを促す。	現在の利用者は、排泄の自立度が高くオムツの必要な人はほとんど無い。	自立している今のうちから、将来に向け本人の排泄パターンを把握するための記録づくりが期待される。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多めに摂るように、水分もしっかり摂るよう、体をよく動かすよう説明し、予防に努めるように話す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では一般家庭のような状況に持っていくのはむづかしい。	入浴日は1日おきで、入浴好きな利用者が多い。しかし、家庭風呂サイズのため、身体的に介護度が高くなると浴槽への入浴が困難な状況にあり、2人介助のための人員確保も難しい。	浴槽をまたげなくなっても、福祉用具等を活用し、浴槽での入浴支援の継続が少しでも長く行えるよう取り組みが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明り・温度・音の調整により、また、電気毛布の使用によりよく眠れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一元的にケアマネが管理し、よく理解してもらっている。服薬介助の際は本人確認・日付確認・朝昼夜眠前薬の区別を声を出して確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員にもそれぞれ得意・不得意があり、また、それぞれ技術も持ち合わせている。全体でやることもあれば、個人的に支援することもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は近くの散歩が多いが、時には出身地・実家をたずねたり、その時期には新緑・桜・彼岸花・紅葉・コスモス観賞に出かけ、蛍・滝めぐりに出かける。希望によってはお寺参りもする。	日常は20分くらいの散歩コースに出かけており、車の通りもほとんどない安全な道で、季節の草花が見られる。また、夜、花火や蛍を見に出かけたり、滝や花見等に車で出かけ季節感を楽しめるよう計画し、支援している。	

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはそのように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらっている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室の掘り炬燵は人気のある場所である。ウッドデッキは時には洗濯物干し場、日光浴、近隣の人との語らいの場でもあり、お気に入りのスペースである。	リビングは広いが、地域性もあり6月頃までは畳みのコーナーにあるコタツは利用者に喜ばれている。手づくりの作品や、干支のトラの作品や切り絵、習字、写真、季節の花を飾る等、居心地の良い空間作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ・和室・外のベンチ等を利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にお気に入りの家具・小物入れ・本・テレビ等の持ち込みをお勧めしている。位牌・仏壇の持ち込みも勿論歓迎である。	家族の協力もあり、好みの家具が搬入されている。手づくりの作品や絵手紙、カレンダー、テレビがあり、個性のある部屋となり、居心地の良い部屋作りの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで、間取りやトイレ・浴室の位置は全員の方が間違われることはない。よって、案内板の類もなく明示していない。		